

## 第55回日本臨床化学会年次学術集会

岩谷 良則\*

「臨床化学の未来を拓く」をメインテーマに、第55回日本臨床化学会年次学術集会(JSCC55)を、2015年10月30日(金)から11月1日(日)の3日間、大阪大学コンベンションセンターで開催しました。臨床化学は、検体検査しか実施できない世界のほとんどの国の臨床検査技師の学問領域になっており、検体検査のすべての領域を含んでいます。そして国際臨床化学連合(International Federation of Clinical Chemistry, IFCC)で世界の臨床検査技師が結びついています。日本では、臨床検査の主要学会として、日本臨床化学会と日本臨床検査医学会がありますが、後者が大学病院検査部の部長(臨床検査専門医)が中心の学会で実務的であるのに対して、前者の臨床化学会は、臨床化学を専門とする様々な職種の研究者が集まる学会で、新しい検査法の開発や測定原理の発見などを行い、また検査法の勧告法をまとめるなど臨床検査の標準化を推進している学術的な学会です。

第55回年次学術集会の一番の特徴は「若手の登用」でした。臨床化学会へ若い研究者の入会を増やして学会の発展を促すため、若手を一般演題の座長に起用しました。この若手は、学会の評議員の先生方に、日本臨床化学会の将来の担い手として期待される50歳未満の若手ということで推薦していただきました。そして、この試みは大成功で、まず若手の座長は非常によく準備をし一般演題の議論を活発にして有意義な発表にしてくれました。そして学会参加者数は630人を超え、特に若手の数が増えました。そして一般参加者の演題

登録(一般演題とYIA演題)の数が114題と増え、過去最大数になりました。

今回は、「臨床化学の未来を拓く」をテーマに、特別講演2つ、教育講演4つ、シンポジウム6つ、ワークショップ1つ、ランチョン及びイーブニングセミナー10個、プロジェクト報告7つ、そして

第55回日本臨床化学会  
年次学術集会

2015年10月30日(金)~11月1日(日)

会場 大阪大学 コンベンションセンター  
会長 岩谷 良則  
(大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻生体情報科学講座)

事務局 大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻生体情報科学講座内 (担当: 渡辺 野夫 准教授)  
〒565-0871 大阪府山田区1-7 TEL&FAX: 06-6879-2596 E-MAIL: nabe@sans.med.osaka-u.ac.jp  
運営事務局 株式会社日本検学会 認定検定センター  
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第七ビル5階 TEL: 06-6342-0212 FAX: 06-6342-0214  
E-MAIL: jcc\_55@nta.co.jp

<http://web.apollon.nta.co.jp/jsc55/>

**JSCC55**  
The 55th Annual Meeting of the Japan Society of Clinical Chemistry  
臨床化学の未来を拓く

写真1 年次学術集会ポスター

\*大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体情報科学(予防診断学) yoshinori.iwatani@gmail.com

会長講演を1つ設けました。また学術集会の最終日には、第1回臨床化学・免疫化学精度保証管理技師指定講習会を開催しました。特別講演では、市原清志教授(山口大学)に検査診断学の近未来について、そして林崎良英 理事長補佐(理化学研究所)にはオミックス科学についてご講演いただきました。そして、教育講演では、メタボロミクス(福岡英一郎教授)、マイクロRNA(河原行郎教授)、ビッグデータ解析(瀬々潤 博士)、脂質代謝(木原進士教授)についてお話いただき、シンポジウムでは、臨床化学の未来を拓く、薬物の安全性評価、先制医療とバイオバンク、若手、質量分析、ゲノム医療の人材育成、の6つをテーマに取り上げました。そしてワークショップでは、日常検査の検査異常の解析について議論しました。そして私は、疾病の発症を予知し予防するためのゲノム・エピゲノム解析による予防診断学について、会長講演を行いました。

この学会は、医師、臨床検査技師、薬剤師、企業の研究開発者で構成されており、日本の臨床検査の研究開発の基幹学会として位置付けられています。現在は、まだ医師主導の学会ですが、日本臨床検査医学会と同様に、将来は臨床検査技師が主導する学会になれるよう、技師の若手の育成が大切ですが、この年次学術集会において大勢の技師の若手が登用され活躍しているのを見て、非常に心強く思いました。そして、懇親会には若手を中心に220人以上の参加があり、とても賑やかで活発な交流が行われましたので、臨床化学の未来を拓くことにつながる学術集会にできたのではないかととても喜んでいました。

最後になりますが、日本臨床検査学教育学会の皆様には大勢ご参加いただき、特別講演や教育講演をはじめ、年次学術集会を盛り立てるために大変ご尽力いただき、心より感謝いたします。ありがとうございました。



写真2 筆者



写真3 懇親会風景